

目標設定に対しての成果

中期計画：地域の「土力」を高める2つの仕掛け

地域×若者連携協議会

- ・若者に関わる専門機関のみの連携ではなく、若者と生活目線で関わり合いながら、お互いを支え合える連携体を設立する。
- ・生活レベルでの若者と地域の関係性の構築が「土力」につながる。

地域×若者コーディネーター

- ・灯台守の育成と同義で、さらに役割がより明確になった。
- ・若者と接する専門知識のみでは灯台守にはなれず、それに加えて地域の多様な主体を巻き込める事務局力も併せ持つ必要がある。
- ・この二つを持った人材が地域に居れば、若者居場所となり、地域のHUBとなる「みなと」は出来る。

短期目標

▶見失わない「みなと計画」の価値

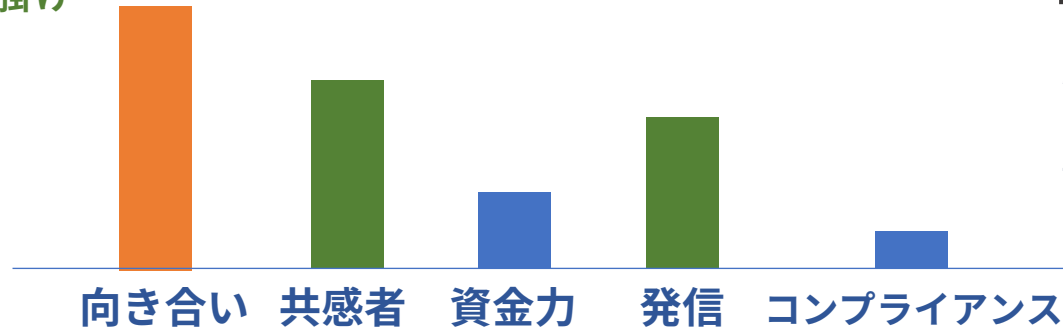
- ・どこまでも「個」に向き合い、寄り添い続けられる。

▶そのために、地味でも確実にやるべきこと

- ・接点は着実に増える
- ・出会う人に確実に伝える
- ・共感の輪を広げる

▶継続事業それぞれの役割を意識し、足場固めに注力する。

- ・事務局力：意識的分業による人材育成・事務局力の向上
- ・広報力：みなと計画パンフレット作成、WEB・SNSの運用、動画作成、相談までの導線の整備
- ・資金力：支援者への理解、収益性のある事業の模索



強味はより伸ばし、みなと計画が担うべき役割が明確になってきた。一方で、苦手分野の克服は目途が立たず、具体的な解決方法が望まれる。

- ・必要な手続き、重要書類の作成などが後回しになる。
- ・社会的信頼のためにはいずれも避けては通れない。
- ・認定を目指すのなら規定類も順次作成していく必要有

- ・SNS各種のフォロワーが増加。インスタグラムはPORTSの事業で開設。
- ・Youtubeチャンネルを開設し、若者の動画インタビューの公開をした。
- ・発信頻度だけではなく、問題提起など重要情報の発信はされていない。

- ・仕事量が増え支援者とのコミュニケーション、手続きに大幅な遅延が生じている。
- ・寄付者の拡大も停滞し、収益性のある事業の立案も手付かず。
- ・大型の委託事業の最終年を迎え、今後に不安を抱える状況である。
- ・狙っていた助成金がかごとく落選したことでPORTSの継続が困難になる。

- ・EBETSUtoやPORTSは開かれたプロジェクトとして地域との関わりが増えてきたため、口コミによるみなと計画の認知が広がってきた。
- ・地道ではあるが、着実に共感者が増えている実感がある。
- ・北海道内や道外の同種団体との連携を試み、単独で全てを担わずに広域で若者を支えられる動きへとつながられた。
- ・切り口を変えることで関わる若者も変わり、より多様な若者との接点が増えた。同時に、プロジェクトごとに関わる大人側も多様になった。

- ・地道に「一人に向き合う」姿勢を貫き、どの切り口であってもみなと計画らしさが現れ、担う役割を明確にした。
- ・特にEBETSUtoやPORTSの若手コーディネーターたちが、自分自身もまた必要とする要素をみなと計画の中に見出し、それをプロジェクトに反映していったことが、意味深かった。